

令和5年度 学校の授業等で活用できる「親学習」研修会

令和5年7月31日(月曜日)14:30~16:30

大阪府の親学習教材『親』をまなぶ・『親』をつたえる』を使用したワークショップを体験し、その活用方法等について考えることにより、学校での「親学習」の充実を図り、児童生徒及び保護者が「親と子の関わり」等を学習できるようにするため、教職員等を対象に学校の授業等で活用できる「親学習」研修会を実施しました。

1. 日程/場所 令和5年7月31日(月曜日)/大阪府教育センター
2. 参加者 40名(教職員等)
3. 内容

(1) 大阪府より「親学習について」

地域教育振興課より、「親学習」の内容や必要性、学校現場での実践等について説明しました。

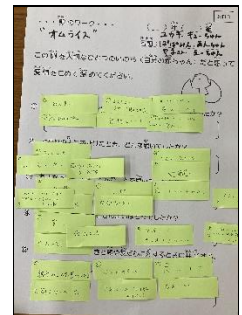
(2) ワークショップ「教材を活用した授業展開について」

府内で親学習リーダーとして活動している方々を講師に迎え、親学習教材「接する」をもとにした「たまごのワーク」を体験し、実践方法等を学びました。



【ワークショップ(前半)】

親学習の「4つのルール(①時間②参加③守秘④尊重)」を学んだあと、「たまごのワーク」を行いました。まずは沐浴人形を抱くなどして、赤ちゃんを思い浮かべました。次に自分の赤ちゃん(たまご)のプロフィール(名前やどんな子どもに育ててほしいか)を考え、たまごに顔を描きました。たまごを両手で包み愛情を注いだあと、他の人に預ける場面を想定し、子育てをしている親の想いを考えました。



【ワークショップ(後半)】

自分の赤ちゃん(たまご)を他の人に預けたときの想いや反対に預かったときの想いを各自で振り返り、グループで交流を行いました。「ホッとした」や「緊張した」など様々な意見がありました。

ワークを体験するとともに講師からは、授業で実施する際の注意点や児童生徒の実際の反応など、授業で実践できるノウハウも学びました。

(3) 参加者の感想

- 自己肯定感や自己有用感が低い子どもが多いと思われる現状の中で、親に愛情を注がれて育ったこと、自分がかけがいのない存在だと気づける教材だと感じました。
- とても充実した研修でした。「命の大切さ」や「親について考える」ことができる素晴らしい内容のため、ぜひ実施してみたいと思いました。
- 実際に赤ちゃん(たまご)を手取るにより、大切にしようという気持ちを実感しやすいと思いました。
- 今まで、「たまごのワーク」を実施する自信がなかったが、今回の研修を受けて参考になったため、学校で実践しようと思いました。